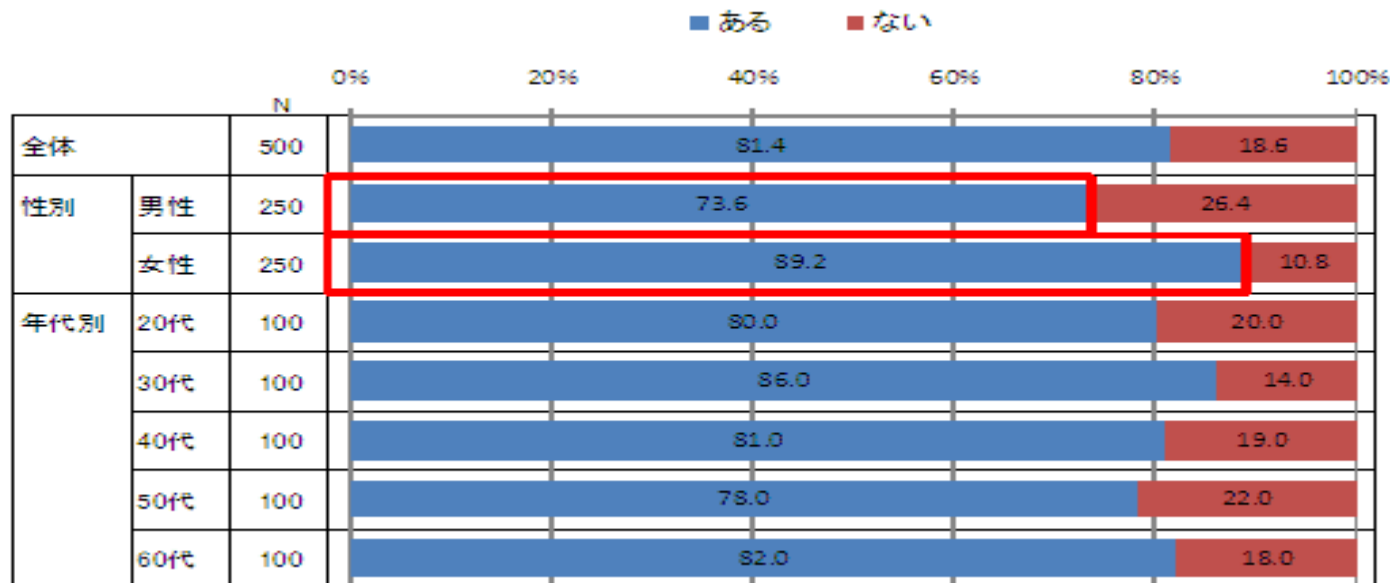


東日本大震災後の意識に関する調査

出典：株式会社マーシュ実施の意識調査(実査期間：2011年4月5日～4月8日)より環境省作成

Q4. 今回の東日本大震災を機に、生活や考え方で変化したことはありますか。(一つ選択)



Q5. 前問で「ある」という回答の人のみそれはどのようなことですか。(自由記述)

【20代男性】

- 当たり前のように使っていた電気がいざたりなくなると貴重な存在であると実感している。(20歳)
- 節電を心がけたり、自粛とは何かと考えたりした。(25歳)
- 普段どれだけ恵まれているかということ 東京が地方に支えられていること ネットワークが人々の暮らしを支えていること。(29歳)

【30代男性】

- 本当の意味で危機感を持つようになった。また行動するようになった。(31歳)
- 電気や水など、何気ないもののがありがたさがわかった。(35歳)
- 世界の日本に対する見方が思ったより好意的だったことを知った。募金やボランティアに対して懐疑的だったが素直に見ることが出来るようになった。(39歳)

【40代男性】

- いざというときの備え、家族の守り方を考え直した。(41歳)
- 災害時の初期対応を家族で考えるようになった。(46歳)
- 節電・節水に今まで以上に気を使っている。人間は本当は優しくて思いやりのある生き物だと感じた。隣にだれが住んでいるのかさえ、気にしない人が多いと言われているのに、世の中捨てたもんじゃないなあと思った。(49歳)

自由記述続き

【50代男性】

- 想定外という言葉の意味。自然に対して「想定外」という言葉のむなしさを感じた。(50歳)
- 今まで日本人は明るい照明や十分な冷暖房に慣れていたが、やろうと思えばずいぶん省エネできるんじゃないかと思った。(57歳)
- 非常時の安全確保の方法を考えた 節電を実行している。(59歳)

【30代女性】

- 家や、マンション、車などなど、高価なものを購入するのは、今は控えようと思うようになりました。ローンを組んで購入しても、壊れてしまえば、借金が残るだけで、大変だから。購入するよりも、レンタルした方が得ではないかと、最近感じます。(30歳)
- 災害時の備えやどう行動するか等、全く準備していなかった。子供が生まれ、自分だけどうにか逃げるといふわけにもいなくなかったので、色々考えたり用意しようと思うようになった。(33歳)
- 日本は電気を使いすぎ。今の節電モードの明るさで充分。パートナーはいらないと思っていただけ、結婚したくなった。(38歳)

【60代男性】

- 地震に対する対策と電気の使用に対するムダの削減。(62歳)
- 今までの災害や震災で献金したことが殆ど無かったが、今回の大震災では寄付をする気になったことが自分でも不思議ですが、実情を見ているとその気になってあちこちで寄付行為をしている。(64歳)
- 何自由なく暮らしていたが、今回の地震の被災の実情等を見て、節電を特に心がけるようになった。又、生きてる人間は強く生きるべきだと思う。(69歳)

【40代女性】

- 今住んでいる家、街、人々、そして家族は、無くならないものでは、決してないということ。原発に対して興味を持たなかったことへの反省。(41歳)
- 何事も起こらない普通の毎日がとても貴重なものだとわかった。(42歳)
- 想像を絶することが、起こることがあるのだということ。(47歳)

【50代女性】

- 今まで大地震や津波の被害も実生活に変化がなかったので人事の様に感じていた面が反省させられた。特別な被害は受けて無いが、大きな揺れを実体験し、スーパーでの買い占めを目にしたり、不安に感じたり、募金を色々な所でしたのも初めてです。(51歳)

【20代女性】

- 現代の生活が便利すぎていたということ、電気は、みんな必要ないほどの過剰な量を使っていたということなどに気づかされた。(20歳)
- 節電などはもちろんしているものの、なんでも自粛すればいいというものではないと思いました。外食や旅行、イベントなどでも、その人にはその人の生活があり、お金が回らないと、困る人もいる。(23歳)
- 電気、ガソリンの節約無駄な買い込みはしないようにしようと思った。いつ自分も被災者になるかわからない。今の自分にできることは何だろう・・・といろいろ考えさせられた。(29歳)

【50代女性】

- 今まで 節電は、心がけていたが更にこころがけるようになった。コンビニの明かりが、今くらいで十分だと思う。銀行のATMの時間短縮は、かなり不便になっている。(53歳)
- 日本人の強さ、優しさを強く感じ、日本人で良かったと感じる。(55歳)

【60代女性】

- 家が壊れた親類がいるので、地震に対して、自分自身も甘かったと思います。(60歳)
- 普通の生活ができることが本当に幸せなことなのだということが、実感できるようになった。(62歳)
- 自分にとって一番大切なものは何かという事。日本は余りにも便利さを追い求めたのではないか。物への執着心を捨てようと思った。(68歳)

東日本大震災による生活意識の変化に関する調査

出典：株式会社NTTアド実施調査（2011年8月4日発表）より環境省作成

購買意識の変化

商品やサービスの選択基準として、震災後に重視するようになったことは「節電や節水、省エネになる」72.0%、「困っている人の手助けになる」52.8%、「安全性が確保されている」47.2%が上位に挙がりました。特に女性50～60代の約9割が「節電や節水、省エネになる」を、女性20代の7割が「困っている人の手助けになる」を重視するようになったと回答しています。

一方、震災後にあまり重視しなくなったことは「流行している」33.2%、「話のネタになる」24.6%、「デザインがよい」22.2%が上位に挙がりました。また、景気不安感が続く中、「価格が安い」をあまり重視しなくなったと回答する人も12.8%で5位となりました。

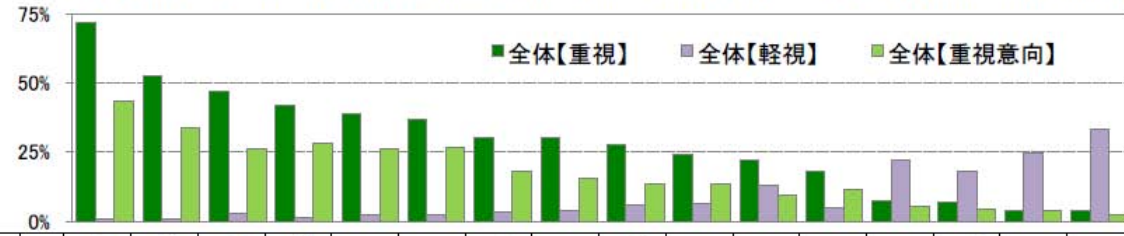
一方、今後重視したいことは「節電や節水、省エネになる」43.2%、「困っている人の手助けになる」33.8%、「困っている人の励ましになる」28.0%が上位に挙がりました。特に女性50代の7割が「節電や節水、省エネになる」を重視したいと回答しています。

自由回答では「社会的責任を果たしていない企業の製品は進んで購入しないようにしていきたい」（44歳、男性）、「利益ある会社が社会に利益を還元することはよいと思う」（21歳、女性）といった意見がありました。消費者は自らの購買行動だけでなく、生産者である企業に対しても社会性やCSRを求めるようになった様子もうかがえます。

震災後、ふだんの購買行動の中でも、話題性やデザイン性といった利己的な動機よりも、世の中のためになるかどうかといった公益性や利他的な動機が強くなっていると言えるでしょう。

図2.商品やサービスの選択基準について、震災前と比べて、以下にあてはまるものを選んでください
 【複数回答】

(1)重視するようになったこと【重視】 (2)あまり重視しなくなったこと【軽視】 (3)今後、重視したいこと【重視意向】



	n数	節電や節水、省エネになる	困っている人の助けになる	安全性が確保されている	困っている人の励ましになる	社会の役に立つ	環境保護になる	家族や友人、知人との絆が深まる	健康によい	自分にとって必要性がある	品質や性能がよい	価格が安い	自己成長になる	デザインがよい	家族や友人、知人に自慢できる	話のネタになる	流行している
全体【重視】 (順位)	500	72.0 1位	52.8 2位	47.2 3位	41.8 4位	39.0 5位	36.8 6位	30.4 7位	30.0 8位	27.6 9位	24.0 10位	22.2 11位	17.8 12位	7.6 13位	7.0 14位	4.0 15位	3.6 16位
男性20代	50	46.0	44.0	22.0	24.0	24.0	20.0	10.0	20.0	20.0	14.0	16.0	14.0	6.0	6.0	6.0	6.0
男性30代	50	62.0	34.0	42.0	24.0	30.0	24.0	18.0	18.0	24.0	22.0	16.0	14.0	2.0	8.0	6.0	8.0
男性40代	50	54.0	56.0	36.0	46.0	40.0	40.0	22.0	26.0	24.0	18.0	26.0	22.0	8.0	8.0	4.0	4.0
男性50代	50	80.0	52.0	50.0	40.0	54.0	44.0	40.0	30.0	34.0	30.0	30.0	18.0	10.0	12.0	6.0	4.0
男性60代	50	70.0	50.0	48.0	42.0	48.0	42.0	30.0	40.0	26.0	30.0	26.0	22.0	10.0	10.0	2.0	0.0
女性20代	50	72.0	70.0	58.0	52.0	34.0	32.0	50.0	44.0	34.0	26.0	28.0	24.0	16.0	10.0	8.0	6.0
女性30代	50	80.0	52.0	50.0	38.0	28.0	40.0	34.0	26.0	26.0	22.0	16.0	6.0	2.0	0.0	2.0	2.0
女性40代	50	78.0	54.0	46.0	44.0	34.0	36.0	24.0	26.0	24.0	22.0	14.0	6.0	4.0	2.0	2.0	2.0
女性50代	50	88.0	54.0	56.0	46.0	46.0	44.0	32.0	32.0	34.0	20.0	18.0	10.0	4.0	4.0	2.0	0.0
女性60代	50	90.0	62.0	64.0	52.0	52.0	46.0	44.0	38.0	30.0	28.0	18.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0
全体【軽視】 (順位)	500	0.8 15位	0.8 15位	2.8 11位	1.2 14位	2.6 12位	2.4 13位	3.2 10位	4.0 9位	5.8 7位	6.4 6位	12.8 5位	4.8 8位	22.2 3位	17.8 4位	24.6 2位	33.2 1位
男性20代	50	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	4.0	0.0	10.0	4.0	8.0	8.0
男性30代	50	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0	4.0	6.0	2.0	4.0	2.0	6.0	6.0	16.0	10.0	14.0	14.0
男性40代	50	0.0	2.0	6.0	2.0	0.0	2.0	4.0	10.0	4.0	10.0	8.0	6.0	28.0	16.0	28.0	34.0
男性50代	50	2.0	2.0	0.0	2.0	4.0	2.0	6.0	8.0	6.0	6.0	18.0	4.0	36.0	18.0	28.0	46.0
男性60代	50	0.0	0.0	6.0	0.0	4.0	2.0	6.0	2.0	6.0	10.0	6.0	6.0	18.0	16.0	36.0	46.0
女性20代	50	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	4.0	6.0	12.0	4.0	14.0	16.0	28.0	34.0
女性30代	50	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	6.0	2.0	2.0	10.0	4.0	18.0	6.0	20.0	20.0	14.0	22.0
女性40代	50	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	4.0	8.0	6.0	8.0	2.0	20.0	30.0	40.0	48.0
女性50代	50	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0	2.0	2.0	6.0	10.0	10.0	20.0	8.0	34.0	20.0	24.0	44.0
女性60代	50	2.0	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	2.0	4.0	6.0	8.0	24.0	6.0	26.0	28.0	26.0	36.0
全体【重視意向】 (順位)	500	43.2 1位	33.8 2位	26.4 5位	28.0 3位	26.4 5位	26.8 4位	17.8 7位	15.4 8位	13.6 9位	13.4 10位	9.6 12位	11.6 11位	5.6 13位	4.2 14位	3.6 15位	2.4 16位
男性20代	50	26.0	32.0	22.0	22.0	22.0	14.0	16.0	14.0	10.0	16.0	18.0	10.0	6.0	6.0	2.0	2.0
男性30代	50	30.0	26.0	20.0	20.0	26.0	16.0	16.0	10.0	18.0	16.0	8.0	16.0	10.0	6.0	6.0	2.0
男性40代	50	18.0	30.0	14.0	28.0	24.0	18.0	6.0	6.0	2.0	6.0	6.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0
男性50代	50	46.0	36.0	28.0	42.0	36.0	46.0	28.0	22.0	16.0	18.0	16.0	18.0	6.0	8.0	6.0	4.0
男性60代	50	40.0	22.0	20.0	20.0	22.0	18.0	8.0	16.0	14.0	8.0	10.0	10.0	6.0	4.0	2.0	0.0
女性20代	50	40.0	42.0	24.0	30.0	34.0	24.0	20.0	16.0	10.0	14.0	12.0	8.0	4.0	4.0	2.0	2.0
女性30代	50	46.0	40.0	30.0	30.0	22.0	28.0	18.0	16.0	18.0	10.0	8.0	10.0	8.0	4.0	10.0	4.0
女性40代	50	56.0	44.0	34.0	38.0	22.0	30.0	26.0	18.0	20.0	16.0	10.0	16.0	2.0	2.0	0.0	0.0
女性50代	50	72.0	40.0	38.0	26.0	24.0	38.0	28.0	8.0	20.0	12.0	4.0	8.0	2.0	4.0	0.0	0.0
女性60代	50	58.0	26.0	34.0	24.0	32.0	36.0	12.0	28.0	8.0	18.0	4.0	18.0	12.0	4.0	6.0	8.0

■:全体との差が+10ポイント以上 ■:全体との差が-10ポイント以上 赤枠:各層の最高スコア項目

「東日本大震災」後の原発への賛否の時系列変化及び節電に関する意識についての全国世論調査

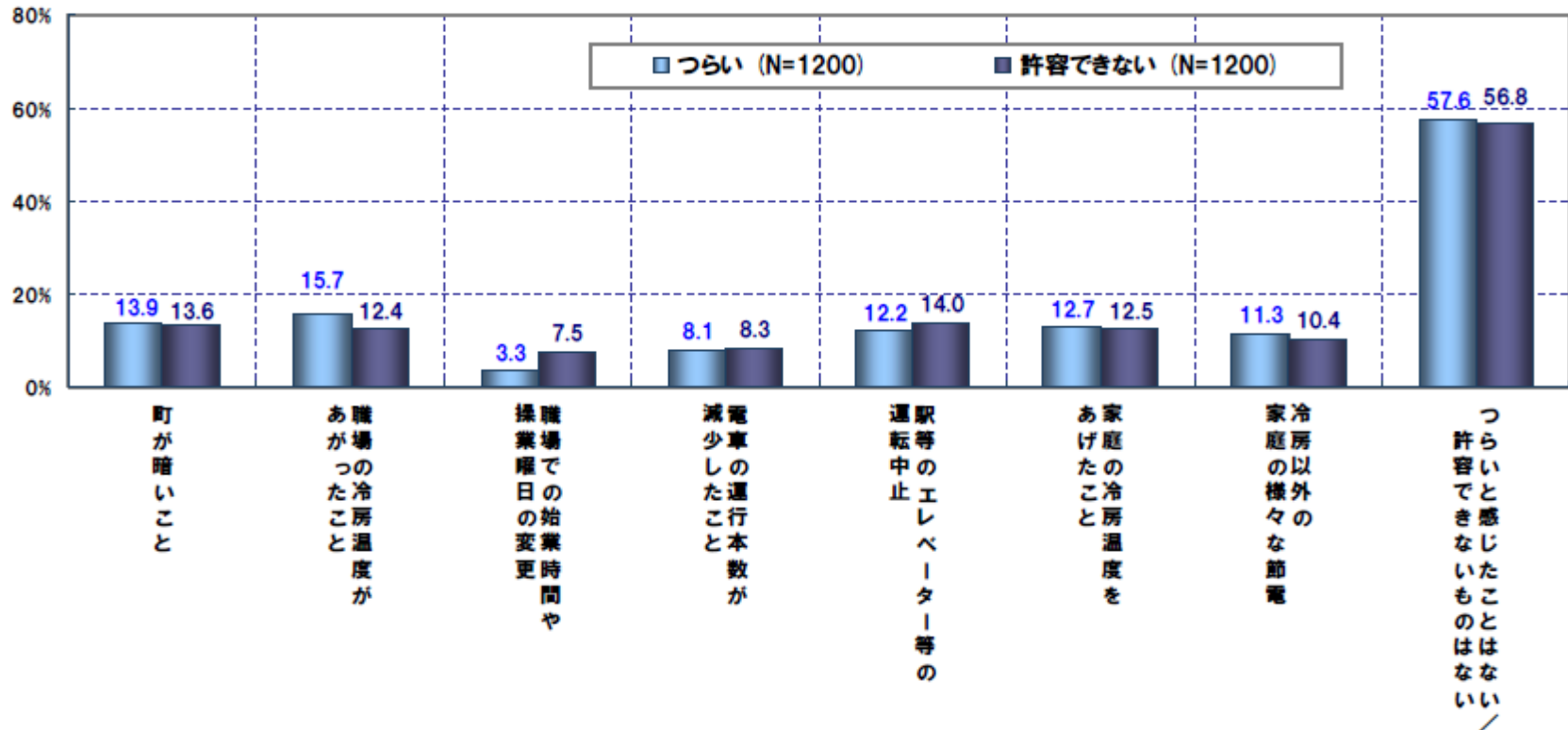
出典：株式会社日本リサーチセンター9月調査(2011年10月6日発表)より環境省作成

節電関連でつらいもの／許容できないもの(MA)

◆ この夏とられた節電対策について、「つらいと感じたもの」および「来年の夏に継続となったら許容できないもの」という2問で聞いた。今夏の節電に対して「つらいと感じたことはなかったか」は57.6%上っている。つらかったこととして比較的多くあげられたのが、「職場の冷房温度があがったこと」であり、15.7%となっている。

- ・来年の夏にも継続される可能性のある節電対策としては、「許容できないものはない」が56.8%となっており、半数以上の人々が我慢できる範囲と回答した。
- ・「職場での始業時間や操業曜日の変更」や「駅などのエレベーターなどの中止」といった項目に関しては、来夏も継続となると「許容できない」としている人が比較的多い。

問 今年の夏の節電に関する以下のような事柄についてあなたが「つらいと感じたもの」をいくつでもお答え下さい(○はいくつでも)
 問 では、来年の夏にも以下のようなことが起こると考えたとき、あなたご自身が「許容できないと思うもの」をいくつでもお答え下さい。(○はいくつでも)



節電関連でつらいもの・性、年代、職業、地域別(MA)

◆ この夏の節電対策で、「つらいと感じたもの」について、性別、年代、職業、地域別に分析した。
 ・この夏つらかったこととして、管理職、事務・技術職、労務・技能職、パート・アルバイトなどでは「職場の冷房温度の上昇」をあげた人が多かった。
 学生や20～30代の層にとっては、「電車の運行本数の減少」が、60歳以上の層にとっては、家庭における節電行動がつらかったことがわかる。

問. 今年の夏の節電に関する以下のような事柄について、あなたが「つらいと感じたもの」をいくつでもお答え下さい。(〇はいくつでも)

<つらいと感じたもの>

		(N)	町が暑いこと	職場の冷房温度があがったこと	職場での始業時間や帰業曜日の変更	電車の運行本数が減少したこと	駅等のエレベーター等の運転中止	家庭の冷房温度をあげたこと	冷房以外の家庭の様々な節電	つらいと感じたことはない	無回答
全体		(1200)	13.9	15.7	3.3	8.1	12.2	12.7	11.3	57.6	0.5
性別	男性	(693)	12.3	18.2	5.1	9.3	11.8	12.3	10.8	55.5	0.2
	女性	(607)	15.5	13.2	1.6	6.9	12.5	13.0	11.7	59.6	0.8
年代別	10代	(76)	15.8	17.1	-	13.2	14.5	11.8	5.3	50.0	-
	20～30代	(397)	11.8	21.7	6.5	9.3	11.3	9.1	7.6	56.2	-
	40～50代	(404)	15.3	17.3	2.7	6.4	11.1	12.6	8.4	59.9	0.5
	60～70代	(323)	14.2	5.9	0.9	7.4	13.9	17.3	20.7	58.2	1.2
職業	農林漁業	(30)	13.3	6.7	-	-	-	6.7	16.7	60.0	3.3
	自営・商工業	(166)	15.8	11.4	1.9	5.1	11.4	13.9	12.0	65.2	0.6
	自由業	(16)	12.5	6.3	-	6.3	25.0	25.0	25.0	43.8	-
	管理職	(36)	14.3	34.3	11.4	17.1	14.3	5.7	2.9	45.7	-
	事務・技術職	(206)	10.2	30.2	5.9	9.3	10.2	8.8	4.4	55.1	0.5
	労務・技能職	(144)	12.5	19.4	5.6	4.9	8.3	9.7	7.6	61.1	-
	パート・アルバイト	(192)	17.7	22.4	2.6	5.7	9.4	17.7	14.6	52.6	0.5
	主婦専業	(162)	14.8	1.6	1.6	7.1	15.9	13.7	12.6	65.4	0.5
	学生	(97)	16.5	14.4	4.1	22.7	15.5	11.3	7.2	48.5	-
	無職	(136)	10.9	3.6	0.7	7.2	17.4	14.5	20.3	55.1	0.7
	無回答	(3)	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
地域別	北海道	(64)	3.7	3.7	-	-	3.7	5.6	11.1	77.8	-
	東北	(90)	25.6	20.0	6.7	5.6	10.0	13.3	18.9	52.2	-
	関東	(426)	21.4	19.0	4.0	19.0	23.7	12.2	11.0	44.1	0.7
	中部・北陸	(196)	7.1	14.1	6.1	1.0	3.0	11.6	8.6	64.1	0.5
	近畿	(192)	12.0	17.2	1.0	2.6	9.9	18.2	14.1	60.9	1.0
	中国・四国・九州	(240)	5.8	10.8	1.3	1.7	3.8	11.3	8.8	70.8	-

全体と比べ5%以上高い

(回答数=1200人) 日本リサーチセンター調べ

節電関連で許容できないもの・性、年代、職業、地域別 (MA)

◆ この夏の節電対策のうち、「来年も継続するとしたら許容できないと感じたもの」を性別、年代、職業、地域別に分析した。
 ・来年の夏にも継続で起こる可能性のある節電対策として「許容できないもの」は層によって異なる。事務・技術職やパート・アルバイトでは「職場の冷房温度の上昇」を、管理職では「職場での始業時間や操業曜日の変更」が、60歳以上の層では、「街が暗いこと」「駅などでのエレベーターの停止」が許容できないこととして多くあげられていた。

問. では、来年の夏にも以下のようなことが起こると考えたとき、あなたご自身が「許容できないと思うもの」をいくつでもお答え下さい。(〇はいくつでも)

<許容できないもの>

		(N)	町が暗いこと	職場の冷房温度があがったこと	職場での始業時間や操業曜日の変更	電車の運行本数が減少したこと	駅等のエレベーター等の運転中止	家庭の冷房温度をあげたこと	冷房以外の家庭の様々な節電	つらいと感じたことはない	無回答
全体		(1200)	13.6	12.4	7.5	8.3	14.0	12.5	10.4	56.8	0.9
性別	男性	(693)	11.0	11.3	7.3	8.9	11.6	12.1	10.5	59.9	0.2
	女性	(607)	16.1	13.5	7.7	7.7	16.3	12.9	10.4	53.9	1.6
年代別	10代	(76)	15.8	13.2	7.9	14.5	17.1	14.5	3.9	48.7	1.3
	20~30代	(397)	11.3	18.6	10.3	9.8	10.6	10.3	7.8	58.9	0.5
	40~50代	(404)	12.1	11.1	8.2	5.4	11.9	12.1	8.4	59.9	1.0
	60~70代	(323)	17.6	6.2	3.1	8.7	20.1	15.2	17.6	52.3	1.2
職業	農林漁業	(30)	13.3	3.3	3.3	-	3.3	13.3	23.3	60.0	-
	自営・商工業	(166)	16.5	11.4	8.9	7.6	15.2	13.3	13.3	53.2	1.3
	自由業	(16)	18.8	6.3	-	6.3	31.3	12.5	18.8	50.0	-
	管理職	(36)	5.7	14.3	20.0	14.3	11.4	14.3	-	51.4	-
	事務・技術職	(206)	8.8	21.5	7.3	5.9	10.2	10.2	6.8	60.5	0.5
	労務・技能職	(144)	10.4	11.1	10.4	6.3	7.6	6.9	5.6	68.1	0.7
	パート・アルバイト	(192)	17.2	18.2	8.3	7.3	12.5	16.1	12.5	52.1	1.0
	主婦専業	(162)	14.8	6.6	4.9	6.6	19.8	11.0	8.2	59.9	1.6
	学生	(97)	13.4	12.4	7.2	21.6	14.4	14.4	5.2	53.6	1.0
	無職	(136)	15.2	2.9	3.6	10.1	19.6	15.9	20.3	50.0	0.7
無回答	(3)	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	66.7	-	
地域別	北海道	(64)	14.8	5.6	-	13.0	11.1	5.6	13.0	59.3	1.9
	東北	(90)	17.8	11.1	8.9	4.4	14.4	11.1	16.7	51.1	1.1
	関東	(426)	16.7	12.7	7.0	12.0	18.8	10.8	7.0	53.5	0.9
	中部・北陸	(190)	10.1	12.6	10.6	5.1	6.1	12.1	12.6	60.1	0.5
	近畿	(192)	11.5	13.5	5.2	7.8	14.6	15.6	9.9	61.5	1.6
	中国・四国・九州	(240)	10.8	12.9	8.8	5.4	12.1	15.4	12.1	57.9	0.4

(%) 全体と比べ5%以上高い

(回答数=1200人) 日本リサーチセンター調べ